

114) 初恋のレクイエム

くぬぎ林を吹く風が 冬の気配を告げている

落ち葉の音を踏みしめて 歩く小径に木もれ陽は

深くさしこみ過ぎし日の 恋の足跡照らしてる

手にとった落ち葉から 思い出がこぼれ出す

武蔵野によみがえる 初恋のレクイエム

荒れ地野菊の紫が 冬の気配を歌ってる

愛していると言えなくて 往きつ戻りつこの道を

彷徨い続け日暮まで 歩いたことを思い出す

すすきの原の陽だまりが 冬の気配を呼んでいる

初めてキスを交わした日 やさしい肌がふるえてた

長い沈黙すぎたあと 尾花の風がほほえんだ

川面を染める夕焼けが 冬の気配を映してる

岸辺のほとり野の花は 春を待たずに枯れてゆく

歳月は流れて恋もまた 流れの中に沈んでく

手にとりし野の花に 思い出がこぼれ出す

武蔵野によみがえる 初恋のレクイエム